

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200057		
法人名	有限会社 テクノライン		
事業所名	すこやかほ～む七山		
所在地	佐賀県唐津市七山滝川1001		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七山の自然豊かな環境の中、開設し8年目になり地域の皆様とのコミュニケーションもうまく取れています。今年度4月には新たにもう1ユニット増設予定です。入居者様のターミナルケアの対応が増える中、相変わらず退去入居と繰り返し、施設運営の難しさも痛感しているところです。今年度は家賃の見直しを行い、入居数金0円。家賃を27,000円に引き下げるなど会社全体で少しでも地域の方々が入居しやすい環境づくりに努めております。また、面会時間を24時間フリータイムしており、しごと帰りにでも気軽に寄って頂けるように対応したり、また、遠方にいらっしゃるご家族様が面会にいらした際は居室にて泊っていただいたりすることで利用者様にもご家族様にも大変満足いただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に位置し自然豊かな環境の中にある2ユニットのグループホームである。地域の行事に参加したり、近くの農産物直売所から食材を仕入れたったり、細目に地域の方との関わりに努めて、自然災害時の避難場所になるなど地域の中でのホームとしての役割を担っている。各居室は壁紙がそれぞれ異なり、季節の飾りつけをするなど、各居室の入居者が他人の部屋と間違えない工夫や、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。親しみやすい理念のもと、管理者をはじめ職員全員が一致協力してケアを行い、入居者は穏やかに生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者中心の生活支援を基盤にした分、分かりやすく覚えやすい理念を掲げ、その理念のもとに職員が業務を遂行できる。毎朝、唱和しています。	わかりやすいものとなるように職員間で話し合っており、現在の理念となっている。玄関等への啓示や毎朝の朝礼、月に1度の会議を通して理念の共有と振り返りの機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加などの交流を通じ、地域の中に溶け込むように努めています。また、地域の方が来訪や相談が自由に行える開放的なイメージ作りに努めています。	地域の行事参加や保育園児の訪問などを通じて、地域の中に溶け込むように努められている。また、地域住民により野菜の差し入れなどもあり、交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の対応として、滝川区の避難所として登録しています。また、運営会議等にて認知症の方への対応等の御話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議のメンバーに滝川区長様をはじめ沢山の地域の方々の参加があります。その中で、意見やアドバイス等を反映させ取り組んでいます。	地区の区長・近隣の事業所・出入り業者・駐在所・包括支援センターの参加のもと2ヶ月に1回、運営会議を開催している。参加者からの率直な意見やアドバイスをもらい運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	唐津市役所の介護保険関係の担当との連絡や相談を密にして協力関係を築けている。	管理者が市役所に出向き、担当者への報告や相談を行い積極的に協力体制を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて勉強会を開催し、意識を高める事ができている。危険行動等にて身体拘束が必要な方に関しても、定期カンファレンスや評価を行いながら解除に向けた定期的な検討も行っています。	日中の休憩交替で1人体制になるときのみ、玄関の施錠を行っている。施錠時時間の記録や定期的な検討会を行い、業務の見直しをすることで施錠時間の短縮を図っている。運営推進会議等でも報告をしている。	今後も施錠に頼らない検討の継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じて援助者の心構えを確認し、虐待が起こらないような環境づくりに努めています。また、各ユニットにて月1回のアンケート実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護など社内研修を通じて取り組んでいる。研修にも派遣し全体で勉強する機会を持っている。成年後見人制度の事例を通じて勉強し、後見人との連絡を密に取り、入居者支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	補足資料を作成し、十分な説明を行っている。また、重度化された場合のターミナルについても、入居時から説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をはじめ、行事等で交流する機会を持ち、また、日々の面会時にその都度直接意見交換する事で、検討や相談を行いすぐに問題解決を図れるように努力している。	各居室に家族との連絡ノートが置かれ、職員が入居者の日常の様子を書いて伝えたり、面会に来られた家族からの要望や意見が書かれていたり、意見交換しやすい取り組みを行っている。また、出た意見や提案は運営に反映できるように職員間で話し合い、対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などで意見交換する機会を設けている。また、運営者、管理者、現場の職員全体でほむ運営の向上について取り組んでいる。	管理者は、毎日の朝の申し送りには必ず参加し、職員の意見や話を聞くようにしている。月1回の全員参加の会議でも職員一人ひとりが自由に意見を述べる機会を設け、情報を共有し運営の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。月に何度もこまめに来所され、現場の状況や職員の勤務態度をみられたり、入居者様の表情や雰囲気、居室内の整備を見られます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらい、会議の際に発表する事にしている。ほむにて必ず月1回の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、グループホーム連絡会へ参加し、地域の業者、医療施設等のネットワークが広がってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話の受容表情動作等の観察を常に行われている。本人が困っていることをいかにすくなくかが、私たちのケアであり、職員全体で入居者の安心と信頼関係の確保に努めている。本人様の生活歴にも心掛けて接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より随時相談を受け、入居後も状況変化等を報告して、本人様や家族の困りごとの把握、支援するように努めている。面会頻度の少ない家族にはなるべく面会に来て頂くようお願いをして、時際に話す機会を増やすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント結果の把握と情報共有を行い、当施設以外にも他施設や地域包括支援センターなどの紹介資料をお渡しできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活者」として「入居者本位」のケアを継続して実践するため、定期的に職員間で話し合い、本人の話を傾聴し意見を聞き取りながら日々の入居者が充実感を得るように援助している。その結果、徐々に信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設の際、ご家族様の労をねぎらい話を聞くようにしている。家族と共に目標を達成していけるように努めている。医療も含めてそれぞれが提案をし、家族と一緒に解決する姿勢でいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への報告、連絡を密にする。面会・外出・外食など自由にできるように支援している。また、行きつけの美容室の要望に関しては馴染みの美容室にて対応行ってもらっている。	馴染みの美容室に通ったり、今まで使っていたお気に入りの化粧品を買いに行くなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりには積極的に取り組み、それぞれの人間関係を把握して、良い距離感で職員が間に入り、ほ～む内の友人関係を築けるように心掛けている。両ユニット交流も気分転換になってある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的に次の転居先、入院先が決まってからの退去となるが、利用終了後も必要に応じて連絡をしたり、情報提供及び横断を行う取り組みがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族様にそれぞれにご要望、ご意向を伺っている。また、ご自身でご意向等が言えない方に関しては、家族の方へ生活歴や性格等、伺いながらスタッフ間で話し合い検討、把握を行う。	入居者一人ひとりの要望や意向に対して支援できるように取り組んでいる。思いを伝える事の出来ない方に関しては、表情の変化や状態を観察し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の性格や生活歴を大事にしながら、声かけや対応に心掛けている。入居時のアセスメントサマリーを入居後の生活に生かしている。居室内配置や馴染みの家具等にも配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の把握と日頃の観察にて、情報の共有に努めている。申し送りノートの活用やスタッフミーティング等実施している。その人一人一人個別ケアに心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を基に介護の計画を進め、状態変化時もしくは3カ月毎にプランの見直し、評価を行いながら対応。また、往診時の主治医からのアドバイスを反映しながら介護計画の作成しています。	毎月モニタリングを行い、3カ月毎に見直しをしている。計画作成の際は、各関係者より意見をもらい、毎月の会議で検討し、現状に沿った介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録だけでなく特記事項など必ず口頭で伝え、毎朝の申し送り時だけでなく、夜勤入りの職員にも必ず情報を伝えている。毎日個別ケア及びケアプラン実施記録をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状で出来る事に取り組んでいます。個別ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問、食生活改善推進委員の訪問、地域保育園、小中学校の訪問を受けたり、近所の方の差し入れなど沢山の方々の出入りがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様の希望にて、現在は地域の診療所がかかりつけ医。2週間毎に在宅訪問診療、もしくは急変時に往診対応。他科受診は基本はご家族様付き添いをお願いしている。情報提供はされてある。	本人や家族の希望で地域の診療所がかかりつけ医になっている。2週間ごとに訪問診療を受けている。専門科の受診の際には家族対応で協力を得ながら、適切な医療を受けることができるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院の看護師と相談しながら日常の健康管理の支援を行っています。2週間毎に訪問診療来設。普段と違う様子など何でも相談出来る関係づくりができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。特に受診、入院歴のある病院や入退所に携わった病院とは連携を深めるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化やターミナルについての方針を説明し同意を得ている。その都度今後の方針などをご家族様、主治医、ほ～むにて話し合いを重ねている。	ターミナルケアに関してや重度化に関しては、必ず家族の意向を十分に確認し、主治医と密に連携を取りながら、慎重に取り組んでいる。医学的なことに関しては必ず主治医より家族へ説明がなされ、関係者で協議しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医への報告を徹底し、個人の病歴が出やすい症状を頭に入れ対応する。救急搬送先の確認を行い、緊急時対応マニュアルを活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定にて避難訓練を実施。消防署や地域消防団にも協力して頂き、入居者様の把握も行ってもらっている。	火災訓練は消防署や消防団の協力を受け、夜間想定も実施している。訓練時のアドバイスを受け、部屋のドアに車椅子の表示をする等の対応をしている。自然災害時にはホームが地域の避難場所にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや尊厳に関するチェック表を利用し職員各人が、日頃の支援を振り返り意識を高めている。	言葉かけや支援方法についてチェック表を作り自己評価を行い、意識を高める取り組みを行っている。各居室にトイレを設置し、設備面でも個人のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、ご意向や困り事がないかなど伺うようにしています。本人様の意思を尊重し選択や自己決定して頂けるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えることを前提にゆっくりと声かけし、何をしたいか聞き実行する。意思疎通が難しい方に関しては、本人様の気持ちを汲み取る姿勢で対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問ヘアークットを利用。性清潔に気を配り、オシャレを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事が楽しいものとなるように、好き嫌いの把握や食事の色彩等にも配慮行っています。儀誕生日食や行事食なども行っています。下膳や台拭きなども行って頂いています。	日々の食事が楽しいものとなるように、行事では職人を招き握り寿司を握ってもらうなど、食事を楽しむことも大事にしている。下膳や台拭きなどの手伝いを入居者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者食をバランスよく提供。食事の形態は体調や状況に応じてその方に合った状態にして提供。水分摂取に関してもこまめに促したり、Dr指示にて控えたりとその方に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア実施。状況に応じ居宅療養管理指導活用し訪問歯科対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や支援記録にて排泄パターンの把握に努め誘導や介助を行っています。入居者様が不快なく気持ちよく排泄出来るように心がけています。	排泄チェック表や支援記録にて排泄パターンを把握し、個別のトイレ誘導や介助を行っている。各居室にトイレがあり、他者に気兼ねなくトイレが利用できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給、腹部マッサージ、生活リズムの安定に努めています。排泄表の活用記録を行っています。ヨーグルトやバナナなどおやつにも工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりとコミュニケーションをとりながら実施しています。自立支援にて出来ない所を手伝っています。入浴表作成して基本の入浴日等は決めてはいますが、その時の状況にて臨機応変に変更し対応しています。	本人の意向や希望に応じて柔軟な入浴支援を行っている。入浴は原則としてマンツーマン体制で行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を十分に取、安眠を促す。巡視時、随時安否確認を行い、環境面にも配慮しています。不眠時持続な際は主治医と相談し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導活用し、酒井薬局にて薬剤管理セット、助言等行って頂いてます。服薬ミスがないように、名前の確認日付の確認を行い服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を生かし実施しています。買い物支援やドライブ、外出支援にし好品の購入等行っています。また、洗濯たたみやメニュー書き等役割作りに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ美容室や喫茶店、買い物支援やドライブ、地域行事等の参加を行っています。	受診の外出の際には本人の希望により、個別のドライブなどに行っている。また季節の花見やショッピングセンターへ買い物、外食に行くなど、臨機応変に外出支援が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によって自分でお金を持ってある方、ほ～むへ小口現金預りを頼んである方、すべてを家族が管理されてある方、様々な対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に応じ対応している。手紙を出したい方にもお手伝いをしながら支援し、返事が届いた際にも必ず本人に届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、快適な環境づくりに努めています。また、季節感を意識し掲示をしたり、入居者様の制作物の展示等も行っていません。入居者様が好まれるようなBGMに心がけています。	訪問者が和めるように玄関では小鳥のさえずりのBGMが流している。リビングは明るく開放的である。壁面には季節感のある飾りつけがなされ、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。玄関には、かわいい飾りを置くなど、居心地のいい空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にソファを配置したり、和みの空間づくりをしている。季節に合ったディスプレイの作成を入居者様と共に作り、共用空間に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた馴染みのタンスや仏壇、椅子等もって頂き使用してもらっている方もいれば、新しく購入し持ってこられる方もいます。	各居室にトイレと洗面所が設置され、プライバシーが保たれている。また、馴染みの家具や仏壇が置かれ、居心地の良い空間になっている。各居室の壁紙が異なり、自分の部屋を認識する工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止を意識し、居室の家具配置やベッドの位置工夫を行っています。居室には表札をつけています。必要な方には「トイレ」と貼り紙をしています。		